

## 巻頭言 本年度で退職となる職員からのご挨拶

なんということでしょう。

3月でこの私が定年になってしまうのです。

初詣の時のお賽銭を50円にケチったからでしょうか。サッカーのワールドカップを観ていてニャン次郎にごハンをわすれたせいでしょうか。精神年齢が私のように5歳ぐらいの場合、もうちょっと延長してもいいのではないかと思います。

さて、今や心臓外科は絶滅の危惧にあります。私の世代の「名人」達が現場を退いた後、将来の夢に向けて心臓外科を目指す20歳代の若者は、いなくなっていました。今後医療は、医師の個々の技能などまったく考慮されない、標準的で民主的な、マニュアル通りの平凡でつまらないものになってしまうのでしょうか。しかし伝統芸に生きようとする「サムライ」も少しは残っています。彼らが大いに活躍する日が来るはずです。知らんけど・・・。



心臓血管外科  
教授 南湊明宏

### 業績紹介

・主な治療実績：

狭心症、心筋梗塞に対する冠動脈バイパス手術、僧帽弁手術、大動脈弁手術、胸部大動脈瘤など

2016年1月から2022年12月までの総心臓外科手術件数は1496件。

学術研究発表に加え、書籍公刊、NHKの「ドクターG」など、情報番組制作にも協力し、社会に対する医学の啓もう活動も積極的におこなっておりました。

- P1～3. 本年度で退職となる職員からのご挨拶
  - P4～6. 【医学講座コーナー】医療現場のAI内視鏡について
  - P6. 【お知らせ】3月度がんサロン開催のお知らせ
  - P7. 患者さんからのご意見・ご要望
  - P8. 【お知らせ】ひな祭りの病院食について
- 【編集後記】



## 本年度で退職となる職員からのご挨拶

形成外科  
教授 大塚尚治



私は 1987 年 6 月から昭和大学形成外科学教室に所属し、当昭和大学横浜市北部病院には 2003 年 3 月から 2023 年 3 月まで外科系診療科・形成外科医として 20 年間赴任致しました。

それまで昭和大学病院（旗の台）、昭和大学藤が丘病院でも勤務しておりましたが、その二者に比し北部病院でより優れていると感じたことは、特に他科との連携・チームワークを得ることにかなりやり易い環境にあることです。これは病院の構造上のこともあるのですが、当初から各科の枠を超え、全ての科で協力し合う体制がありました。

2003 年の時点で既に電子カルテの情報を共有し、PHS で話し合いながら方針を決めていました。小児科、小児外科、耳鼻科、眼科、口腔外科、整形外科、外科、消化器センター、循環器センター、皮膚科、腫瘍内科は初診当日すぐ対応していただけの場合が多く助かりました。外来、手術室、病棟の各スタッフの皆様、誠に有難うございました。

当科のことより全体のことを考えて行動するという基本的な事が重要であると再認識しております。今後も北部病院のさらなる円滑な運営と結束の強い組織としての発展を祈ります。



おつかれ  
さまでした

# 本年度で退職となる職員からのご挨拶

西 2 階病棟  
師長 鈴木千恵子

2012年に昭和大学病院より北部病院に異動となりました。異動後は看護責任者・救急認定看護師として、救急外来を受診した患者の緊急度を判定する、緊急度判定支援システム（JTAS：Japan Triage and Acuity Scale）を導入し、院内トリアージを開始、急変時対応チームや災害時トリアージ訓練に携わりました。

また、職員に対する急変対応、災害対策などの講師も務めさせて頂きました。2015年には入院面談の前進であるプロジェクトの立ち上げに携わりました。2018年には外来受診患者のバイタルサインを点数化し、急変を未然に防止をするために早期警告スコア（National Early Warning Score：以後NEWS）を導入し、翌年には看護部主導で病院全体に導入しました。同時に外来医師事務導入や骨盤底外来の立ち上げに携わりました。

2020年からメンタルケアセンター病棟で感染対策や医療安全文化の醸成に奮闘しました。今年度はNEWSを使用し、RRT（Rapid Response Team：患者対応のアドバイスや環境をトリアージするチーム）として病棟巡回し、患者の急変の防止に貢献できたのではと思います。多くの方々に助けられ、様々な経験をすることができ本当に有意義な10年間でした。更なる北部病院の躍進を心より応援しております。

NICU・GCU病棟  
師長 齊藤治代

1981年に昭和大学医学部付属看護専門学校に入学し、卒業後は大学病院の小児科病棟で6年間勤務させて頂きました。幼いながらも病気を受けとめ頑張っている子どもたちから沢山のことを教えて貰いました。あの頃出会った子どもたちのことは今でも鮮明に覚えています。その後、未熟児センター（現在の総合周産期センター）に異動し、生まれたばかりの小さな命とその子が持っている大きな将来を守り、これからその子に愛情を注ぎ、大切に育てていかれるご両親のお手伝いをするのにやりがいを感じ、2011年に新生児集中ケア認定看護師の研修を受け、新生児看護に携わって参りました。そして2015年に北部病院へ異動、それと同時に師長として病棟管理を任せて頂くことになりました。一般病床について知識も経験も少ない私が病棟責任者を務めることができたのは、看護部の皆様をはじめ、院内関係者の皆様の多くの支えがあったからこそと深く感謝しております。北部病院での8年間は新たに学ぶことも多く、看護師としての視野を広げることができました。今後もこれまでの経験や学びを活かし、精進して参りたいと思います。ありがとうございました。

# 【医学講座コーナー】医療現場の AI 内視鏡について

(消化器センター 講師 三澤将史)

## 人工知能 (AI) とは

おそらく、多くの皆さんが聞いたことがある人工知能 (AI) が今回のテーマになります。実は未来のことだと思われていた AI が、医療に進出しつつあります。特に内視鏡検査 (大腸カメラや胃カメラ) では AI の活用がすでに始まっています。

では、AI はどういったものか? 多くの方がマンガやアニメに登場する、知能を持ったロボットのようなものを想像されるかもしれませんが。実はこのような万能な AI は、まだ全く実用化のめどが立っていません。現在使用できる AI は、特化型 AI といわれる一つのことしかできない AI なのです。

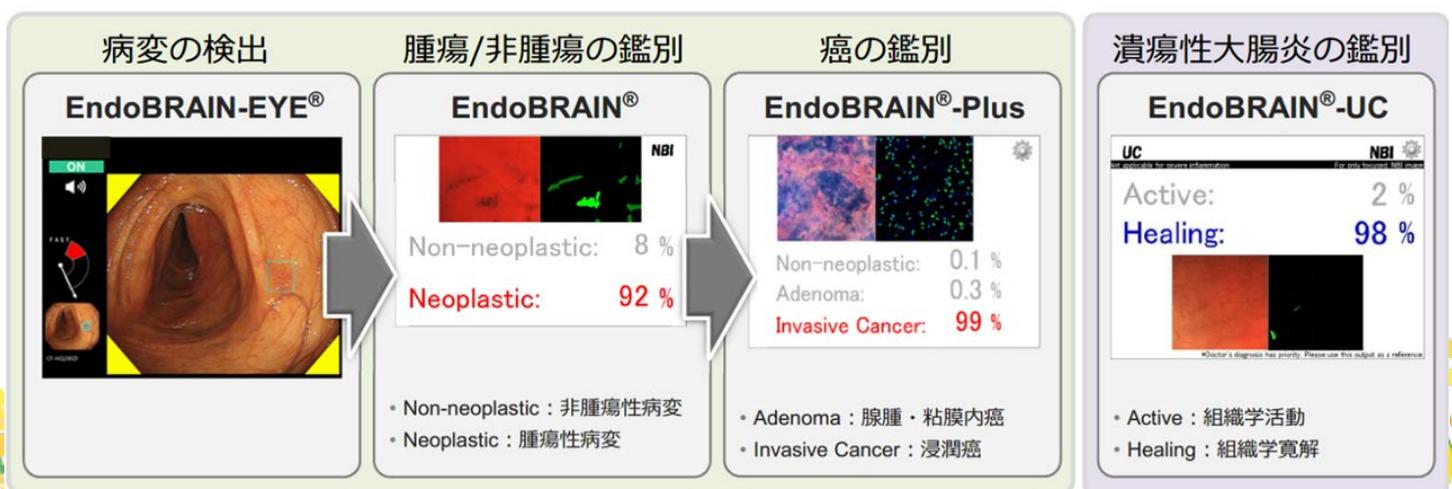
AI 内視鏡で具体例をあげれば、画像上からポリープなどの病気による変化を発見する機能や、それがどのような性質なものか (治療すべきものか、そうでないか) を判断する機能になります。

したがって、AI 内視鏡といっても AI 自身が内視鏡検査を主体的にするわけではなく、医師が病気による変化を発見して治療方針を決めるまでのプロセスをサポートするにすぎません。

## 当院で活用されている AI 内視鏡

ここでは、実際に医療現場で使用することができる大腸の AI 内視鏡である「EndoBRAIN®」についてご紹介します。実はこの「EndoBRAIN®」は、昭和大学横浜市北部病院 消化器センターの工藤進英が中心となって開発され、国から医療機器として承認を受けたわが国初の AI を使用したプログラム医療機器なのです。

当院では、これまでに国から承認を受けた 4 種類の「EndoBRAIN®」を活用しており、大腸ポリープや早期がんなどの発見・診断、および潰瘍性大腸炎という指定難病の診断において医師の診療をサポートしています。



### 大腸内視鏡検査の有用性

AI の話だけではなく、少し大腸がん和大腸内視鏡検査の関係についてご説明します。まず、わが国では毎年、約 15 万人の方が大腸がんになり患され、約 5 万人の方がなくなっており、がん死亡数から見ると女性では 1 位、男性では 3 位の頻度です。新型コロナで亡くなられた方は 3 年間で約 6 万人 (2020 年 1 月から 2023 年 1 月) であることを考えると、いかに多くの方が大腸がんで亡くなられているか、よくご理解いただけたと思います。

では大腸がんを予防したい! と考えたときに何が最も効果的かご存じでしょうか? 実は「大腸内視鏡検査を受けること」なのです。

アメリカはいち早く大腸内視鏡検査によるがん検診に取り組んできました。その結果、なんと 1 度でも大腸内視鏡検査を受けたことがある方は、受けたことがない方と比べると、約 70% も大腸がんにかかるリスクが低いことが示されています。

これは大腸内視鏡検査を受けることによって、がんになる手前の段階で早期発見され適切な治療を受けることができたからだと考えられています。

わが国でも当センターの工藤進英が中心となり、大腸内視鏡検査の大腸がん予防効果を実証するべく、大規模な研究に取り組んでおり、近い将来その結果が報告される予定です。もしかすると、これまで大腸がん検診は便検査のみでしたが、大腸内視鏡検査が健診に導入されることになるかもしれません。



### 大腸内視鏡検査における AI の効果

ではなぜ大腸内視鏡検査に AI が必要なのでしょうか?

たしかに、大腸内視鏡検査は早期発見・早期治療に非常に有用です。

しかしながら、検査を担う医師も人間であり、病変の発見率は医師個人の経験や技量により大きく影響され、検査のクオリティにばらつきがありました。そこで AI に白羽の矢が立ったのです。

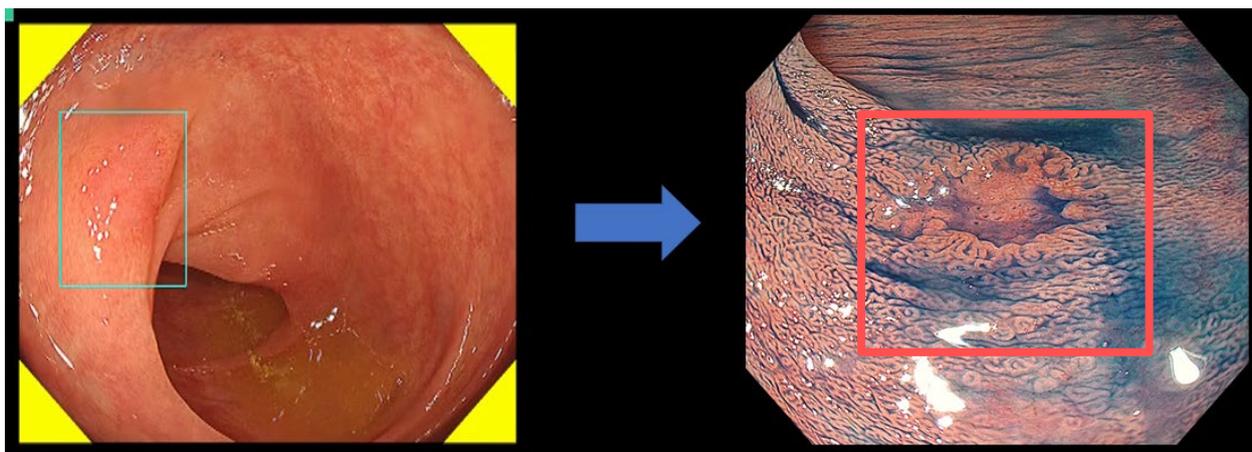
実際に当院でも「EndoBRAIN®」を使用することにより、腫瘍の発見率が向上したり、高い診断精度で病気による変化を見つけられることを実証しました。

## 【医学講座コーナー】医療現場の AI 内視鏡について

(消化器センター 講師 三澤将史)

下の図では、発見が難しく、かつ再発や転移の可能性が高いがんを AI が発見した場面です。このように内視鏡 AI を使用することで「誰がいつ検査しても、名医と同様のクオリティが患者さんに提供できる」ということが期待されています。

もちろん、AI 自体の精度は 100%ではないため、内視鏡 AI が誤った情報を提示することがあります。しかしながら当院では、内視鏡 AI の開発に携わった経験から利点・欠点をすべて熟知したうえで、内視鏡 AI の優れた点をうまく診療に取り込んで、皆さんに最良の内視鏡を提供することを心がけています。



### おわりに

AI 内視鏡、大腸がんについて簡単に解説しました。ぜひ、これをお読みになった 40 歳以上の方で、大腸内視鏡検査を受けていない方はご受診いただくとともに、受けたことがある方はお知り合いで受けたことがない 40 歳以上の方に大腸内視鏡検査を受けるように勧めてください。

そして当施設の大腸内視鏡検査には、熟練した医師が優れた AI を携えて診療にあたっています。どうか安心して検査を受けてください。

## 【お知らせ】3 月度 がん患者サロン「きぼう」

3 月度 がん患者サロン「きぼう」

開催日時：3 月 16 日（木）14：00～15：00（予定）

開催方法：オンライン開催

ミニレクチャー：「人生会議

（ACP：アドバンスケアプランニング）」

（参加には事前申し込みが必要です。）

申し込み等詳細は右の QR コードからご覧ください。）

お問い合わせ：中央棟 1 階 100 番

総合サポートセンター 045-949-7000（代）

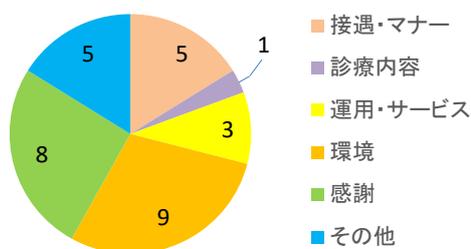


# 患者さんからのご意見・ご要望

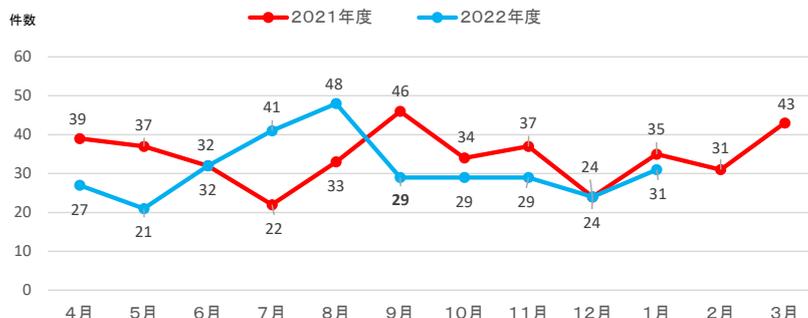
日々患者さんより、ご意見箱にいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に、改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p>3週間に一度入院しています。中央棟1階のローソンやタリーズに外来患者のいない時間に行きたいのに、その時間には閉まっています。</p> <p>入院患者が利用しやすいように閉店時間を長くしてほしい。外来の方はいくらでも外に出て買い物できるので、入院患者にもう少し寄りそってほしい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>この度いただきましたご意見をもとに、タリーズの営業時間を平日は18時まで延長しました。</p> <p>(※土曜日は15時までです。日・祝日は休業)</p> <p>なお、ローソンについては営業時間の変更はありませんが、平日は22時まで営業しております。(※土日・祝日は18時までです)</p> <p>(回答部署：管理課)</p>
<p>駅からの案内看板が少ない。駅の出口と病院への曲り角に、もっと大きな案内板がほしい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>駅からの案内看板の設置については、設置が可能な場所等の事情により、申し訳ございませんが現在検討はしておりません。当院ホームページ内に経路図（アクセスマップ）をご用意しておりますので、そちらをご覧ください。ご不便をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願いたします。(回答部署：管理課)</p>
<p>多目的トイレのトイレットペーパーホルダーについて。カッター付きのものであれば、私のように片麻痺や、他の不自由な方にとってありがたいのですが。</p>	<p>ご不便をおかけし申し訳ございません。</p> <p>この度いただきましたご意見を参考に、カッター付きトイレットペーパーホルダーへの変更を順次実施いたします。</p> <p>貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>(回答部署：管理課)</p>

2023年1月  
ご意見・ご要望の総計31件



2021年度・2022年度  
ご意見・ご要望の推移



## 【お知らせ】ひな祭りの病院食について

日差しにも春の訪れを感じるようになりました。3月3日は、ひな祭りです。季節の節目となる日を「節句」といわれ江戸時代に設定された「五節句」の一つが「ひな祭り」になります。当院も、ひな祭り献立を提供予定です。



「お浸し」に使用しております「菜の花」は、春が旬のアブラナ科の緑黄色野菜で、他にはブロッコリー、チンゲン菜、キャベツなどが同じ仲間です。

アブラナ科の野菜は、咀嚼、カット、おろしたりすることで野菜に含まれる「イソチオシアネート」という成分が変化し、苦みなどの独特な味わいになります。また、「イソチオシアネート」は抗酸化作用、動脈硬化予防、免疫カアップなどの効果が期待されています。

※写真は昨年度のものです

その他の献立は、彩り鮮やかな「ちらし寿司」をはじめ「清汁、治部煮、ひなあられ」をご用意させていただきます。三寒四温の時節柄、お身体ご自愛下さい。

## 編集後記

私の趣味は山登りです。今年は、人生の折り返し地点を迎えたので新たなことに挑戦しようと思い、初雪山登山に行ってきました。



雪山は、必要な道具が増えるので装備が重くなり、危険度も高まり、コースタイムも1.5倍かかるので思っていた以上に大変でした。でも、地面の多くが雪の下に埋まり、白い景色が広がることで、山の神々しさがひととき輝いていました。大変な思いをした分、大きな感動と達成感を得ることができました。

(燕岳(標高約2,712m)山頂から槍ヶ岳方面)

人は年齢を重ねるごとに「1年が早く感じる」などと思うようになりますが、それは新しいことに会う機会が減るからだとも言われています。そう思っている方は、是非これまで経験していない新しいことに挑戦して、新鮮な思いや緊張感、ドキドキ感などを得てみることをお勧めします！

(看護部次長 佐々木舞子)

北部病院だより 第177号  
2023年3月1日発行

発行責任者 門倉 光隆 (昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 緒方 浩顕 (広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。